

立教大学日本学研究所国際シンポジウム

# 幻の「源氏物語絵巻」をもとめて

## 近世初期の公家文化圏における『源氏物語』享受

本シンポジウムは、立教大学SFRおよび文科省科研による調査活動の成果として刊行した『源氏物語と江戸文化』（小嶋菜温子・小峯和明・渡辺憲司編、森話社、2008）において新しく紹介した、幻の「源氏物語絵巻」についてのシンポジウムである。立教大学を中心とした調査活動によって見いだされた、幻の「源氏物語絵巻」は17世紀前半に企画制作された豪華絵巻であり、国宝「源氏物語絵巻」をはるかにしのぐ大規模な国家的プロジェクトであったと考えられる。これまでに国内ではその一部が、石山寺に所蔵されており国の重要文化財に指定されているほか、海外にも数点その所在が知られているものがある。最近になって、一連の絵巻の巻頭部分が徳川美術館で新出展示され、大きなニュースとなり、また上記の『源氏物語と江戸文化』もまた新聞記事に取り上げられるなど注目を集めている。

本シンポジウムは、『源氏物語と江戸文化』の成果を踏まえつつ、その発展として、日本文化史の闇に埋もれていた、幻の「源氏物語絵巻」の歴史的な位置づけと、文化史上の存在意義について検証したい。報告では美術史学の専門の立場から、幻の「源氏物語絵巻」の新資料の紹介を行う。それを受けての美術史学、歴史学、江戸文学・文化学による多角的なコメントをとおして、幻の「源氏物語絵巻」の謎に迫り、その全容解明に向けての足がかりを得たいと考える。

主催：日本学研究所

日時：2008年7月12日(土) 13:00～18:30

場所：立教大学池袋キャンパス 7号館7102教室

プログラム

開会の辞：蔵持重裕(立教大学教授・日本学研究所所長)

趣旨説明：近世初期の『源氏物語』享受

小嶋菜温子(立教大学教授；司会)

報告1：幻の「源氏物語絵巻」パーク本について

稲本万里子(恵泉女学園大学教授)

報告2：幻の「源氏物語絵巻」ベルギー本について

エステル・レジェリー＝ポエール(フランス国立東洋言語文化大学准教授)

コメント1：渡辺雅子(メトロポリタン美術館主任学芸員)

コメント2：北野良枝(狩野派研究；東京芸術大学助教)

コメント3：久保貴子(近世史；昭和女子大学講師)

コメント4：鈴木淳(江戸文学研究；国文学研究資料館副館長)

総括：渡辺憲司(立教大学教授)

閉会の辞：荒野泰典(立教大学教授)

お問い合わせ先：立教大学日本学研究所

TEL/FAX03-3985-2617 e-mail: nihongaku@grp.rikkyo.ne.jp

